

Q：汚染水流出後の海洋汚染はどうなったでしょうか？

A：4月6日以前に流出した高濃度汚染水は毎分2リットルが流出したと換算され、10日間で約2000兆Bqと計算された。IAEAのヨウ素換算係数を適応しない単純合計ベ-スで、放射性物質放出の総量を約4700兆Bq(テラベクレル)だと推量した。

では魚介類への影響はどの程度なのか、発表がないので判らない。

4月4日、常磐沖で漁獲されたイカナゴの稚魚(コウナゴ)からは、放射性セシウムが1kgあたり526Bqセシウム137、4080Bqのヨウ素131が検出されたことから、出荷停止された。

この最初の検出から以降も汚染度が上昇し、コウナゴでの最高は1万4400Bqのセシウム137が検出された。

他の魚種ではアイナメから1kgあたり857Bqのセシウム137、カキから740Bqのセシウム、アカモク(海草)から1640Bqと12万7700Bqのヨウ素131が検出されたことから、放射性物質は海底に沈殿しやすいことを示しています。

海洋に流れ出た放射能汚染物質は流出してから親潮によって南下し、さらに銚子沖周辺で黒潮に合流し、北太平洋へと拡散すると見られておるので、銚子沖以南では概ね汚染されないだろうとみられております。

ただし、直接海洋へ放出された汚染水ばかりではなく、陸地の放射性物質も水に溶けて降雨毎に川に運ばれ、やがて海洋へ流れ出ることになり、阿武隈川のような流域面積の広い河川は大量の放射性物質を運ぶことになり、汚染の長期化は避けられない。

海水魚の体内に取り込んだ放射性物質は、元素により生体内で蓄積し易く組織が決まっています。

特に骨に蓄積し易い元素が多く、今回の原発事故でも大量に放出されたのは、セシウム137とストロンチウム90は、多くが骨に取り込まれる。

これはセシウム、ストロンチウムは、カルシウムに似た元素であるため、カルシウム



9月以降、暫定規制値(500Bq/Kg)を上回った水産物				
魚種	都道府県	採取地	日付	放射性セシウム 測定値(Bq/Kg)
パパガレイ	福島県	久之浜沖	9月28日	1140
アイナメ	福島県	久之浜沖	9月28日	1680
クロソイ	福島県	久之浜沖	9月21日	2190
シロメバル	福島県	久之浜沖	9月14日	2200
ヒラメ	福島県	原町沖	9月14日	1610
スズキ	福島県	鹿島沖	9月14日	670
イシガレイ	福島県	鹿島沖	9月7日	1030
コモンカスベ	福島県	広野沖	10月5日	720
コモンカスベ	福島県	久之浜沖	9月28日	980
コモンカスベ	福島県	久之浜沖	9月21日	1560
コモンカスベ	福島県	久之浜沖	9月21日	510
コモンカスベ	福島県	久之浜沖	9月14日	1100
コモンカスベ	福島県	植田沖	9月7日	600
エソイソアイナメ	福島県	四倉沖	9月21日	1770
エソイソアイナメ	茨城県	日立市沖	9月5日	540
ウスメバル	福島県	広野沖	10月5日	520
ウスメバル	福島県	四倉沖	9月21日	950
イワナ(天然)	群馬県	前橋市(赤城大沼)	9月20日	563
ワカサギ(天然)	群馬県	前橋市(赤城大沼)	9月12日	650
ウグイ(天然)	群馬県	前橋市(赤城大沼)	9月12日	741
アユ(天然)	福島県	伊達市(阿武隈川)	9月14日	1120
アユ(天然)	福島県	伊達市(阿武隈川)	9月14日	780
アユ(天然)	福島県	伊達市(阿武隈川)	9月7日	650

※水産庁ホームページより抜粋